

三重県学校体育研究連合会

三重県学校体育研究連合会会長
三重県中学校保健体育研究会会長
木村元彦（鈴鹿市立天栄中学校校長）

はじめに

三重県学校体育研究連合会は、平成10年度に三重県小学校体育研究会、三重県中学校保健体育研究会、三重県高等学校保健体育教育研究会、三重県国公立幼稚園・こども園長会が一つになり、三重県の運動・スポーツ教育の充実及び学校体育指導者の資質向上を図るため組織されました。

平成15年度には、第42回全国学校体育研究大会三重大会を開催するに当たり、中心的役割を果たしました。

その後、毎年度、各校種で授業研究会などの実践的研究を重ねるとともに相互に授業実践の交流や情報交換を行なうなど、三重県学校体育の振興に努めています。

1 活動概要

(1) 目的 三重県学校体育指導者の資質向上を図り、もって学校体育の発展に寄与することを目的とする。

(2) 事業 ① 学校体育、保健学習に関する調査・研究
② 体育指導力の充実・向上
③ 学校体育に関する研究大会等の開催
④ その他、目的の達成に必要な事業

(3) 加盟団体 ① 三重県小学校体育研究会
② 三重県中学校保健体育研究会
③ 三重県高等学校保健体育教育研究会
④ 三重県国公立幼稚園・こども園長会

(4) 組織 ①会長 1名、 ②副会長 若干名、 ③顧問 若干名
④理事長 1名、 ⑤常任理事 7名、
⑥理事 小学校 9名、
中学校 9名、
高等学校 9名
国公立幼稚園・こども園 1名
⑦書記 1名、 ⑧会計 1名、
⑨幹事 若干名、 ⑩監査 2名

2 事業概要

月	平成27年度		平成28年度	
	内容	会場	内容	会場
4月				
5月				
6月	常任理事会 理事会兼研修会	県立みえ夢学園高等学校 県立みえ夢学園高等学校	常任理事会 理事会兼研修会	県立みえ夢学園高等学校 県立みえ夢学園高等学校
7月				
8月			実技研修会	三重大学附属小学校
9月	授業研究会	県立明野高等学校		
10月	授業研究会 授業研究会	四日市市立保々中学校 三重大学附属中学校	授業研究会	三重大学附属中学校
11月	公開保育 授業研究会 授業研究協議会 授業研究会 授業研究会	鈴鹿市立飯野幼稚園 四日市市立河原田小学校 三重県総合教育センター 名張市立比奈知小学校 四日市市立桜中学校	授業見学会 授業研究会 授業実践協議会 授業研究会 授業研究協議会	志摩市立安乗中学校 伊勢市立厚生中学校 鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校 四日市市立河原田小学校 三重県総合教育センター
12月			授業研究会	鈴鹿市立玉垣小学校
1月			授業研究会 授業研究会 授業研究会	県立伊賀白鳳高等学校 四日市市立大池中学校 三重大学附属幼稚園
2月	授業研究会	三重大学附属小学校	授業研究会 常任理事会	三重大学附属小学校 鈴鹿市立天栄中学校
3月				

3 継続的な調査研究

三重県では、1991年当時、内地留学に赴いていた中学校体育科教員が、小学校・中学校・高等学校の児童生徒及び体育指導者を対象に「学校体育についてのアンケート」（抽出調査）を、全県的に実施しました。

その後、平成15年度第42回全国学校体育研究大会三重大会を開催するに当たり、三重県学校体育研究連合会として2001年に、10年振りに同様のアンケート調査を実施し、三重大会に向けた研究の基礎資料としました。

また、三重大会後も継続的な調査研究を行っていくこととし、三重大会から10年後となる2013年に同様のアンケート調査を実施し、10年ごとでの経年的な体育授業への意識等の実態や変容を把握してきました。

4 平成27年度各校種の実践

(1) 三重県小学校体育研究会

三重県小学校体育研究会では、研究主題を「子どもが夢中になる体育授業の創造」と設定した研究を行いました。

そこで、次の2点を大切にしたい授業研究を実施しました。

- ・「運動の中心のおもしろさ」(主題)を導き出し、子どもに提示する課題を明確に設定した上で授業デザインを行う。
- ・教師が単元のゴールを設定し、子どもの運動の質の高まりの変容を捉える。

① 「体づくり運動領域 体力を高める運動 『素早く戻ってこよう』の実践からの学び

* 「状況判断をつかませる見せ方」

- ・・・ 運動の中で子どもが、次に動く方向を決める状況判断が大切で、「こうなったらここを見る」「このときはここに行く」と直接指導するのではなく、運動や動きの予測を促すために、運動の全体経過のイメージが形成されるような見る場所の指導や見るタイミングの指導といった、運動を見ている子どもへのアプローチが重要であること。

* 「関係の強弱を見る」

- ・・・ 運動の中で、相手の状況に注目すればよかった状況から、扱う用具(実践ではピンポン球で、床に置いた際に“跳ねる”)といった変化が生まれる)にも意識を向けなければならない状況に変化することで、他者との関係性を強めていくことが、結果として動きの質を高めていくこと。

② 「器械運動 ～マット運動～」の実践からの学び

* 授業の本質(中心のおもしろさ)が何なのかを教材研究でしっかりと捉えた上で、単元構成を行っていくこと。

* 単元のゴールを授業者が設定するには、単元が終わった時に、子どもたちがどんな姿になっていたら良いのかをイメージすること。

* 教えることと考えさせることや気付かせることのバランスを図ること。

* 子どもたちが、どのような場面で、どのような困り感を表出してくるのかをしっかりと持って授業に臨むこと。

* 単元を通して「スッと立てる」といった課題を貫いたことで、活動に戸惑ったり困ったりする場面でも、どこに立ち返ればよいのかが明確にされていたこと。

(2) 三重県中学校保健体育研究会

三重県中学校保健体育研究会では、「誰もが『わかる』『できる』『好き』と思える保健体育の授業を目指して」といったテーマを切り口にした研究を行いました。

① 「剣道」の実践での工夫

* 指導者が、指導することが多すぎるがゆえの「剣道は難しい」という観念から脱却し、指導するポイントを焦点化する。

* 基本動作の習得に時間がかかるため、生徒が飽きないように指導内容を工夫する。(難しいことを易しく、易しいことを深く、深いことを面白く)

* 「創作剣道」に挑戦したころ。

／生活班単位で剣道の動き(面うち、胴うち、足さばき等)を中心に用いて、一分ぐらいの演武を創作。

<注意点>

- ・剣道の動きを行う。学習した動きを用いる。
- ・ミュージカルやコントでなく、「和」を重んじたテーマを設定する。
- ・アドリブの動きではなく、練習し約束のある動きであること。
- ・役割分担はあるものの、全員が参加できる全体の動きとする。
- ・切られて終わりにはしない。

(3) 三重県高等学校保健体育教育研究会

三重県高等学校保健体育研究会では、三重県高等学校保健体育教育研究大会での公開授業や三重県高等学校保健体育教育研究協議会で3校の実践報告及び講演会を行っています。また、県内6支部単位での研修会も実施しています。

① 三重県高等学校保健体育教育研究大会での公開授業

* 「豊かなスポーツライフの実現ー球技(ベースボール型)ー」

／技能の評価基準

- ・「ボール操作」狙った方向へステップを踏みながら、無駄のない一連の動きでボールを投げることができる。
- ・「安定したバット操作」身体の軸を安定させてバットを振りぬき、狙った方向にボールを打ち返すことができる。

② 三重県高等学校保健体育教育研究協議会での実践報告及び講演会

* 「ジャベリックスローについて」

* 「創作ダンスの授業実践について」

* 「環境問題における調べ学習の取り組みについて」

* 「アンガーマネジメント」

③ 各支部での研修会の内容

* 「アーチェリー」、「バスケットボール」、「やらされ感をできるだけ減らす持久走」、「ダンス実技講習会」(2つの支部で実施)、「タグラグビー」

(4) 三重県国公立幼稚園・こども園

三重県国公立幼稚園・こども園では、毎年、発表園を決め、園内研修テーマを基に運動遊びの公開保育を行っています。

昨年度は、鈴鹿市立飯野幼稚園が「鈴鹿市教育推進研究会」と「学体連」の公開を兼ねて発表しました。

<研究主題>

心や体を弾ませて遊ぶ幼児の育成をめざして
～環境構成の工夫や教師の援助の在り方を探る～

<当日の活動>

年少組は「飯野サーキット」、年長組は「忍者修行」というイメージを膨らませ、そのものになりきれようような環境設定や教師の言葉かけがあり、どの子ども心や体を弾ませて遊んでいました。

<参観を通しての学び>

- ・幼児期は、運動機能が急速に発達し、多様な動きを身につけやすい時期であり、この時期に多様な運動刺激を与えることが大切である。
- ・幼児は、自発的に様々な遊びを体験し、楽しんで夢中になって遊んでいるうちに、多様な動きを獲得する。
そのためには、時間の保障と共に、生活習慣や生活リズム、体づくりを含め、家庭への情報発信や連携等の取り組みの推進が大事である。
- ・幼児期は、興味や好奇心、意欲、満足感、自信等が身につくような遊びを取り入れていくことが大事である。友達が存在や友達と一緒にするという事は言うまでもない。